



令和5年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和5年2月10日
上場取引所 東

上場会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
 コード番号 6993 URL http://www.daikokuyajp.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小川 浩平
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 堀内 治芳 TEL 03-6451-4300
 四半期報告書提出予定日 令和5年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万未満切捨て)

1. 令和5年3月期第3四半期の連結業績（令和4年4月1日～令和4年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益		四半期包括利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第3四半期	9,978	△22.6	136	-	5	-	△197	-	△165	-
4年3月期第3四半期	12,898	47.2	△4	-	△146	-	△261	-	△265	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第3四半期	△1.69	-
4年3月期第3四半期	△2.23	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
5年3月期第3四半期	6,748	1,310	9.9	5.69
4年3月期	7,363	1,475	11.6	7.31

(参考) 自己資本 5年3月期第3四半期 665百万円 4年3月期 854百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
5年3月期	-	0.00	-	-	-
5年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 令和5年3月期の業績予想（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益	包括利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	百万円	%
通期	12,647	△27.2	193	204.1	23	-	△241	-	△2.06	△197	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

5年3月期3Q	116,982,866株	4年3月期	116,982,866株
5年3月期3Q	12,123株	4年3月期	11,963株
5年3月期3Q	116,970,813株	4年3月期3Q	116,971,059株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来の予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス（以下「COVID-19」という。）感染症に関する行動制限の解除や渡航制限が撤廃された事に伴うインバウンドにより、経済活動は持ち直しし始めましたが、中国における政策転換に伴う感染の拡大やウクライナ情勢及び急激な円安に起因する資源価格の高騰等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く古物売買業界の事業環境は、COVID-19下のリベンジ消費、物価高や急激な円安に伴い高級ブランド品価格がウクライナ危機前まで上昇しましたが、その後米国の金利引き上げもあり、IT関連銘柄の下落、金融市場の混乱、景気動向の不透明感から、円安進行による円建での価格上昇により、堅調に推移し始め、昨年10月11日より渡航制限が撤廃された事に伴うインバウンド復活により、売上高はコロナ前の水準に向かって戻りつつあるものの、中国人渡航者制限が未だ続いておりますが、昨今の世界情勢を踏まえすと、中国でのインバウンドの解禁及びG7サミット開催を背景とした更なる渡航者の拡大や国内コロナ施策解除に基づく、買取・販売の増加がまもなく起きる事が期待されます。

当社グループでは、かかる現況下、コロナ禍による中国大陸からの渡航者のインバウンドや国内店舗での買取・販売の伸びが期待されず、リスクを回避したオペレーションを行ってまいりました。今後、これらが改善し需要回復に向かう事に伴い、買取・販売が増加する事が見込まれ、今後の新たな需要機会に備えた体制を整え、攻めの経営に転じて参ります。加えて、ブランド品の買取に際して、大黒屋を中心とした永年に亘る顧客基盤、KYC判断能力、商品中心とした真贋鑑定及び査定力、そして在庫回転期間の一層の短縮化を強化し、更なる飛躍をしていきたいと考えます。

このような状況下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高及び利益は上記不安定な相場環境に対応する為、上期に引続き高額品の在庫の圧縮に努めた結果及び中国におけるCOVID-19政策の転換に伴う感染の急拡大による渡航制限もあり、売上は減収するも利益は大幅に改善となりました。

(売上高)

当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、9,978百万円（前年同期比2,920百万円減、同22.6%減）となりました。その主な要因は以下の通りであります。

まず、当社グループの根幹会社である株式会社大黒屋（以下「大黒屋」という。）において、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,767百万円（前年同期比2,914百万円減、同22.9%減）となりました。

この減少要因は、先に事業環境で記載した通り、大黒屋では高級品相場の混乱から被る潜在的コスト負担を緩和すべく、上期に引続き一歩引いて効率的在庫管理を行い、更に一部店舗を買取専門店に特化し商品構成を変更した事によるものです。その結果、リアル店舗全体での売上高（リアル店舗のよる販売の事：以下「リアル」という。）が減少し、リアル4,514百万円（前年同期比3,666百万円減、同44.8%減）となりました。

また、ネット店舗商品売上高（インターネットによる店舗販売の事：以下「ネット」という。）においても広告効率の改善などの継続的なEC販売の強化活動を展開したものの中国でのコロナ施策の逆風を受け1,514百万円（前年同期比104百万円減、同6.4%減）となりました。

一方、本部商品売上高（古物業者市場等への販売のこと）については、コロナ禍の影響が緩和され市場が活況を呈してきた事もあり2,981百万円（前年同期比787百万円増、同35.8%増）となりました。

併営する質料収入においては、コロナ禍の影響化大口が減り小口顧客が増えた事から質料（貸付金利息）は644百万円（前年同期比57百万円増、同9.8%増）となりました。なお、質草預りに伴う営業貸付金残高(2,017百万円)は前年同期比325百万円増加しており第4四半期以降の質料アップが期待出来、更に質屋業はコロナ禍の影響下でも顧客の逼迫した金繰り要請に応える事が出来る事から今後も強化して参ります。

また、越境関連としましては、越境EC、ライブショッピング等の売上が731百万円（前年同期比82百万円増）と順調に増加していますが、一方で中国におけるゼロコロナ政策の転換による感染拡大で同国内における買取販売業の成長が鈍化しました。更に一昨年7月より開始したChrono24も462百万円と順調に推移しております。

(利益)

当社グループの営業利益は136百万円（前年同期比140百万円の改善）となりましたが、その主な要因は以下の通りであります。

まず、大黒屋において売上総利益は2,624百万円（前年同期比23百万円増、同0.9%増）となりました。この要因は店舗商品売上総利益（リアル）が売上高の減少に伴い993百万円（前年同期比354百万円の減少、同26.3%減）となった一方、店舗商品売上総利益（ネット）は326百万円（前年同期比58百万円の増加、同21.7%増）となり、本部商品売上高の売上総利益は635百万円（前年同期比182百万円の増加、同40.4%増）となりました。また質料（貸付金利息）は644百万円（前年同期比57百万円の増加、同9.8%増）となりました。なお、質料収入はそのすべてが売上総利益となります。

大黒屋の販売費及び一般管理費につきましては、ポスト・コロナを見据え費用対効果の観点から広告宣伝効率を改善しながら広告投資を積極的に行った結果、2,183百万円(前年同期比166百万円減、同7.0%減)と改善しました。なお、大黒屋では、のれんを計上しているため、第3四半期の償却費406百万円を販売費及び一般管理費に含めておりますが、連結決算においては、のれん償却費を消去するため、当該金額を控除した金額で記載しております。

以上の結果、大黒屋の営業利益は441百万円(前年同期比189百万円の増加)となりました。

一方連結累計では上記の通り大黒屋ののれん償却費が相殺される事により営業利益は136百万円(前年同期比140百万円の改善)となりました。当社グループの経常利益は、5百万円(前年同期比152百万円の改善)となりました。これは上記営業利益の改善と支払利息/手数料の改善によるものです。

以上の結果、当社グループの税金等調整前四半期純利益につきましては23百万円の損失(前年同期比128百万円の改善)となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、197百万円の損失(前年同期比63百万円の改善)となりました。

なお、大黒屋において企業評価指標の一つであるEBITDAは483百万円(前年同期比188百万円の増加)となりました。

以上の通り当第3四半期連結累計期間において売上は減収するも利益は大幅に改善となりました。昨年10月11日以降の渡航制限の撤廃により大黒屋では中国人渡航者を除くコロナ禍以前の新たなインバウンド需要が再現しており、かかる動向を踏まえ下期において当該業績を十分挽回できると料しております。

セグメント別の業績の状況につきましては以下の通りであります。

イ. 質屋、古物売買業

当第3四半期連結累計期間における質屋、古物売買業の売上高及び営業利益は、それぞれ9,772百万円(前年同期比2,909百万円の減少、同22.9%減)、398百万円(前年同期比183百万円の改善、同85.15%増)となりました。

その主な要因につきましては、業績の概況にて記載しましたように、大黒屋において市場業者への売上は増加したものの店舗全体の売上高の落ち込みによるものです。

ロ. 電機事業

当第3四半期連結累計期間における電機事業の売上高及び営業利益は、それぞれ205百万円(前年同期比10百万円の減少、同5.0%減)、45百万円(前年同期比5百万円の減少、同10.5%減)となりました。

電機事業においては、今もなお電機業界全体において設備投資の抑制が続いている事もあり、最終ユーザーによる設備の新設工事や点検工事などは年々減少しているのが実情であります。また、資材(原材料)価格の上昇や後継者不足による小規模下請け業者の廃業など、より一層厳しい環境が続いており、当社の電機事業にも大きな影響を与えています。

このような状況の下、当社電機事業部門におきましては、適正な利益を確保するため常に販売価格の見直しを行うとともに、製造原価の上昇を抑えるべく仕入先の転換(新規仕入先の拡充等)、現行取引ユーザーとの協力体制の拡充等、さまざまな手法をとって利益率の確保を目指し改善を行っております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間における、資産、負債及び純資産の状況は以下の通りであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、5,403百万円となり、前連結会計年度末に比べ517百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金が現金及び預金が99百万円増加、商品及び製品が817百万円減少、その他の流動資産が110百万円減少した一方で営業貸付金が214百万円増加した事によるものであります。固定資産は、1,345百万円となり、前連結会計年度末に比べ96百万円の減少となりました。

この結果、総資産は6,748百万円となり、前連結会計年度末に比べ614百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は5,334百万円となり、前連結会計年度末に比べ745百万円の増加となりました。固定負債は104百万円となり前連結会計年度末に比べ1,194百万円の減少となりました。これは主に長期借入金1,200百万円減少した事によるものであります。

この結果、負債合計は、5,438百万円となり、前連結会計年度末に比べ449百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、1,310百万円となり、前連結会計年度末に比べ165百万円の減少となりました。

この結果、自己資本比率は9.9%(前連結会計年度末は11.6%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来の予測情報に関する説明

令和5年3月期の連結業績予想につきましては本日付け当社開示資料「令和5年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,043,934	1,143,616
受取手形、売掛金及び契約資産	372,378	463,659
営業貸付金	1,802,445	2,017,022
商品及び製品	2,273,907	1,456,726
仕掛品	19,879	21,575
原材料及び貯蔵品	36,881	39,371
その他	373,204	262,893
貸倒引当金	△1,434	△1,605
流動資産合計	5,921,195	5,403,260
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	666,508	666,941
減価償却累計額	△504,574	△519,213
建物及び構築物 (純額)	161,934	147,727
機械装置及び運搬具	129,483	129,483
減価償却累計額	△129,483	△129,483
機械装置及び運搬具 (純額)	0	0
工具、器具及び備品	704,801	700,660
減価償却累計額	△660,452	△667,757
工具、器具及び備品 (純額)	44,349	32,903
土地	41,446	41,446
有形固定資産合計	247,729	222,077
無形固定資産		
のれん	390,494	365,027
その他	5,058	4,633
無形固定資産合計	395,552	369,660
投資その他の資産		
投資有価証券	34,213	44,198
退職給付に係る資産	5,741	5,754
その他	761,586	706,556
貸倒引当金	△2,640	△2,640
投資その他の資産合計	798,901	753,870
固定資産合計	1,442,183	1,345,607
資産合計	7,363,379	6,748,868

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	36,445	52,661
短期借入金	3,500,000	3,500,000
1年内返済予定の長期借入金	400,000	1,200,000
未払法人税等	132,501	109,074
契約負債	44,196	48,727
事業整理損失引当金	35,555	25,557
賞与引当金	-	16,012
その他	440,357	382,483
流動負債合計	4,589,056	5,334,516
固定負債		
長期借入金	1,200,000	-
退職給付に係る負債	17,387	19,055
役員退職慰労引当金	3,667	7,321
資産除去債務	16,000	16,000
その他	61,638	61,642
固定負債合計	1,298,692	104,019
負債合計	5,887,749	5,438,535
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,955,414	2,955,414
資本剰余金	1,003,601	1,003,601
利益剰余金	△2,085,140	△2,282,975
自己株式	△2,185	△2,195
株主資本合計	1,871,689	1,673,845
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	540	6,863
為替換算調整勘定	△1,017,738	△1,015,402
その他の包括利益累計額合計	△1,017,197	△1,008,538
新株予約権	24,586	24,586
非支配株主持分	596,551	620,439
純資産合計	1,475,630	1,310,332
負債純資産合計	7,363,379	6,748,868

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)
売上高	12,898,313	9,978,240
売上原価	10,225,659	7,279,497
売上総利益	2,672,654	2,698,742
販売費及び一般管理費	2,676,814	2,562,004
営業利益又は営業損失(△)	△4,160	136,737
営業外収益		
受取利息	1,084	1,100
受取配当金	845	1,101
受取手数料	6,954	13,362
受取保険金	258	-
為替差益	3,474	982
その他	4,072	4,392
営業外収益合計	16,689	20,939
営業外費用		
支払利息	95,589	88,412
支払手数料	63,222	33,901
その他	597	29,369
営業外費用合計	159,409	151,683
経常利益又は経常損失(△)	△146,880	5,993
特別利益		
為替換算調整勘定取崩益	13,079	-
特別利益合計	13,079	-
特別損失		
減損損失	6,528	6,392
和解金	18	700
固定資産除却損	1,272	9
事業整理損失	11,230	5,067
資産除去債務履行差額	-	17,685
特別損失合計	19,050	29,854
税金等調整前四半期純損失(△)	△152,850	△23,860
法人税、住民税及び事業税	50,727	145,130
法人税等調整額	45,400	5,711
法人税等合計	96,127	150,841
四半期純損失(△)	△248,978	△174,702
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,219	23,132
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△261,198	△197,834

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)
四半期純損失(△)	△248,978	△174,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	6,924
為替換算調整勘定	△3,817	2,489
持分法適用会社に対する持分相当額	△13,079	-
その他の包括利益合計	△16,877	9,414
四半期包括利益	△265,855	△165,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△277,480	△189,175
非支配株主に係る四半期包括利益	11,624	23,887

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自令和3年4月1日 至令和3年12月31日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自令和4年4月1日 至令和4年12月31日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自令和3年4月1日至令和3年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	電機事業	質屋、 古物売買業	計				
売上高							
製商品販売	216,235	12,121,367	12,310,573	-	12,310,573	-	12,310,573
質料収益	-	586,390	586,390	-	586,390	-	586,390
その他	-	1,350	1,350	-	1,350	-	1,350
顧客との契約か ら生じる収益	216,235	12,682,078	12,898,313	-	12,898,313	-	12,898,313
外部顧客への売 上高	216,235	12,682,078	12,898,313	-	12,898,313	-	12,898,313
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	216,235	12,682,078	12,898,313	-	12,898,313	-	12,898,313
セグメント利益又 は損失(△)	50,781	215,148	265,930	△30,106	235,823	△239,984	△4,160

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、不動産賃貸業及び金融事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△239,984千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自令和4年4月1日 至令和4年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	電機事業	質屋、 古物売買業	計				
売上高							
製商品販売	205,408	9,127,405	9,332,814	-	9,332,814	-	9,332,814
質料収益	-	644,075	644,075	-	644,075	-	644,075
その他	-	1,350	1,350	-	1,350	-	1,350
顧客との契約か ら生じる収益	205,408	9,772,831	9,978,240	-	9,978,240	-	9,978,240
外部顧客への売 上高	205,408	9,772,831	9,978,240	-	9,978,240	-	9,978,240
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	205,408	9,772,831	9,978,240	-	9,978,240	-	9,978,240
セグメント利益又 は損失 (△)	45,431	398,339	443,771	△33,430	410,340	△273,603	136,737

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、不動産賃貸業及び金融事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△273,603千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。